



555 VipavadeeRangsit Road, Chatuchuck 10900 Tel. 0 2553-8111, Fax: 0 2553-8222

プレスリリース / PRESS RELEASE

第 3/2563 (Aor. 1) 号
2020 年 1 月 8 日

タイ投資委員会、人材育成強化、教育機関支援にインセンティブを提供

タイ政府はタイ4.0と呼ばれる経済ビジョンとバンコク郊外3州をカバーする東南アジアのデジタルハブである東部経済回廊（EEC）をサポートするための一連の戦略を立ち上げた。このビジョンを達成するためにタイはEECだけで2023年までに475,000もの新たな仕事の空きを埋めなければならない。これには学士号以上が必要なものを始めより洗練された職業スキル労働が必要になる。

更にこの東南アジア第二の規模を誇る経済国は2035年までに完全な発展国になるためには伝統的な製造業からイノベーションの時代へと飛躍し人工知能、ロボット工学、生物科学、航空宇宙、そして世界における第4次産業革命と呼ばれている技術の進化から生じる新しい産業柱のハブにもなる必要がある事を認識している。

従ってタイ政府は4つの別々の政府部門を新たに高等教育科学研究革新省に統合してタイおよび海外の民間部門と緊密に連携して研究と人材育成（HRD）を強化することを目指している。

タイ投資委員会（BOI）はHRDに従事する企業に追加の税制優遇措置を与えている。科学、技術、工学、数学を専門とする教育および職業訓練機関-いわゆるSTEM科目-の設立に投資する企業は5年間の法人所得税が免除される。

BOIはSMARTビザと言われているものも提供しており外国人投資家とその家族及びビジネス、科学、教育の主要な人材が労働許可証を取得する必要なく国内に最大4年間滞在する事を始めに幾つの特権を享受できる。

BOIはまたR&D情報の共有を改善するためにタイの8つの主要な研究学校で構成されるタイの研究大学ネットワークとの合意に達した。この合意は民間部門の需要主導型のR&D活動、協同組合教育プログラム、および高度なスキルを持つ労働力の採用における協力を促進することを目的としている。

BOIの事務局長であるDuangjai Asawachintachit女史曰く、「需要と供給間におけるパーフェクトなマッチングを確実なものにしたい」と。「この協定はタイにおける企業と学術間の共同研究開発体制を拡大させ主要技術における製造業者の競争力を強化するためにBOIの促進の役割を強化する。」と。

これら最近のイニシアチブは既に既知のトレンドに更なる拍車を掛けている。2017年までの5年間でタイの研究開発費の支出は倍増しGDPの1%までに達し政府は2021年までにこれを1.5%まで引き上げる事を目指している。タイは2019年のスイスを拠点とするIMDビジネススクールの世界で最も競争力のある経済の年間グローバルランキングで5位上がって25位に着けた。更にこの王国は国連の2019年の持続可能な開発目標で東南アジア諸国連合（ASEAN）を形成する9か国の中でトップに選ばれた。この評価には質の高い教育も評価としてを含められている。

国内および海外の教育機関と民間部門間のコラボレーションもHRDをサポートするためのもう1つの重要な推進力である。スワンナプーム国際空港近くのバンコク東部郊外にあるモンクット王工科大学ラカバン校（KMITL）はピッツバーグのカーネギーメロン大学と提携している。そして2019年にはKMITLとCMUのジョイントベンチャーであるCMKL大学がコンピューターと電気工学では初の修士号と博士号プログラムを開始した。

「多くの企業がCMUのお膝元近くに居たいためにピッツバーグに移転したが現在では我々がCMUをタイに持ち込んで来た」とCMKL大学の学長であるSupan Tungjitkusolmon博士は語っている。「我々は共に産学の新しいコラボレーションを生み出すことが出来る。」と。

KMITLとCMUの取引は人材育成を通じて労働力を向上させ外国人投資家や世界最高の学術および職業訓練機関に重要なサポートを提供するよう奨励するタイの取り組みの一例にすぎない。

CMKL合併事業に加えてEECのバンコクのタマサート大学とアマタ大学の両大学は国立台湾大学と提携している一方タイ最大の企業であるフォーチュン500ランクのPTTから資金提供を受けているVidyasirimedhi Institute of Science and Technologyは世界レベルの大学且つ最先端イノベーションの中心になる事を目的に日本、韓国、ヨーロッパの主要な教育機関とコラボしている。

バンコクのブラファ大学は日本の三菱電機ファクトリーオートメーション社と連携してインテリジェントファクトリーシステムを操作するAIと産業用ロボットを使用したオートメーション技術の教育標準の開発およびに標準向上の加速を目指している。

明白な事ではあるが、タイの教育改革は職業研究の重要性と地位を最重視している。その良き例の1つはKMITLと日本の国立工科大学とのコラボレーションで日本の高専高等専門学校制度が提供する世界クラスの職業訓練を提供する高等工学学校を開校しているという事であろう。

KOSEN-KMITLとして知られているこの教育機関は15歳からのスタートで5年間のコースで教育を行いロボット工学とAIの両方に必要な電気工学と機械工学の組み合わせであるメカトロニクスの資格を持つエンジニアを輩出している。

日本はタイにとって最大の外国人投資家であり卒業生は主にEECに進出する日本企業に入社する事を期待されている。クラスは英語とタイ語で行われ日本語は3年目からの授業となる。24人から構成される生徒の最初のバッチはタイ全土からの300人を超える応募者から選ばれた。KOSEN-KMUTTとして知られるKOSENの2番目の研究所はKMITLの姉妹キャンパスであるモンクット王工科大学トンプリ校に来年オープンする。

KOSEN-KMITLの准教授であるKomsan Maleesee博士は曰く、日本の国立工科大学が2大学と協力する事によりタイの技術教育の地位を高めるであろう、と。卒業生は大卒の学位を取得するために更に2年間の勉強を終了できる機会が与えられる。「将来の世代に夢を持たせるために彼ら全員を日本で勉強するべく日本に送る予定だ」と。

タイの教育機関や企業はヨーロッパの職業専門知識も活用している。世界をリードする教育企業の1つである英国を拠点とするピアソンはEECと協力して英国のビジネスおよびテクノロジー教育評議会から授与されるBTECの卒業証書を獲得できるキャリア重視のプログラムを開発している。

タイの教育機関は従来の定時制学位や職業コースに加え生涯学習プログラムと特定スキルが陳腐化しないように定期的に更新するためのより柔軟な短期コースを提供する為に民間部門との協力を考えている。「私たちはそれを再発明された大学と呼んでいる」と国立高等教育研究・イノベーション政策審議会の事務局長であるプールサックコゼーヤポーン博士は言う。

人材育成へのこのような強いコミットメントによりイノベーションに焦点を当てた外国投資を後押しして2035年までに先進国の地位を達成する、というタイの目標は益々現実味を帯びてきた。

更なる情報は下記までお問合せください

Thailand Board of Investment

Tel. +66 (0) 2553 8111

Website: www.boi.go.th
